



## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 2021年度「新人養成講座・現地研修」(浜松まつり会館編)



屋台の由来に興味津々

いた話など、初めて知ったことが多かったようです。初子の凧で凧合戦はやるのか、屋台は何人で引くのか、高さは？重さは？など次々と質問が出ていました。

1時間ほどで館内を回ったら、次は東ブロックの桶田さんの説明で命山の見学です。防潮堤と命山の両方で大きな津波が来たとしても被害をなるべく押さえられるだろう事、命山の上には1000人もの人が避難できることなどを、実際に登って上からの景色を眺めながら聞きました。命山を降りたところで、新入会員の記念写真を撮り、時間がある人は防潮堤に登ってみました。私が子どもの頃はいつまで歩いてもなかなか海にたどり着けなかった中田島砂丘ですが、防潮堤に登ったらすぐに波打ち際が見え、やっぱり知っていても衝撃的な光景だと思いました。砂の上に描かれた美しい風紋を見たり、アカウミガメの保護活動について考えたり、凧場の位置を確認したりして、今日の研修は終了しました。



当日参加の新入会員で記念撮影

座学を修了した24期生の現地研修が、3月7日浜松まつり会館から始まりました。当日は13名(東1名、西5名、南2名、北3名、中2名)が参加、更に研修部8名、広報部1名、23期生2名の合計24名という大所帯となりました。始めに中村館長から、まつり会館と私たちボランティアとの大切な協力関係についてのお話をいただき、南ブロックの杉本さんの全体説明を聞き、全員でビデオを見た後、杉本さんと東ブロックの頼母木さんの二つのグループに分かれて見学しました。凧糸、凧の大きさや作り方、昔からのお祭り参加の三種の神器、法被・手拭い・提灯について説明を受けました。また御殿屋台は凧を運ぶ必要から始まり、現在のきらびやかな姿に発展してきたことや、以前は芸者さんを乗せて



凧の揚げ方について熱心に聞く様子

新入会員の中には浜松に住んでいても浜松まつりに参加したことが無い方もあり、今回浜松まつりの具体的な内容を知って、すごさが分かったそうです。また命山と防潮堤という津波から私達を守るための大規模な設備にもびっくりした、と言う声が聞かれました。浜松まつりにずっと参加されてきた方は、他の新入会員にまつりについて解説されていました。実際に経験している人が一番よく分かっているものですね。今年は、コロナ感染対策をした上で、凧揚げは上限規制の有観客、御殿屋台引き回しは各町内で実施と規模縮小で開催される予定です。連綿と受け継がれてきたまつりの伝統とノウハウを忘れてしまわないように、多くの人たちに浜松まつり会館に来て、浜松まつりについて知って欲しいと思いました。

広報部 松沼素子(南ブロック)

三寒四温、春間近の2月末NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台である伊豆を訪れました。今回はいつも眺めてばかりいた初島に渡ってみました。熱海港から船で30分、40戸だったこの島も、海底ケーブルで電気・水道が引かれ人口が増加。リゾート地に変貌して、名産だった初島沢庵のだいこん畑は姿を消してしまっただけでなく、

対岸に熱海、連なる山々の向うに富士山がずっしりと構え、東は湯河原の町へと続き、遠くに見えるのは三浦半島とのことでした。西は大島・小室山・大室山・天城山と伊豆半島が望めました。期間限定



伊豆山神社にて

で源平合戦ならぬ井合戦が食堂街 14 店舗の参加で開催されていて、漁師さんご自慢の新鮮な海産物に舌鼓を打ちました。釣りはもちろん、スキューバダイビングも人気で最近イルカ2頭が戻ってきてくれたとダイバーさんが動画を見せてくださいました。

熱海駅から車にて10分くらいで行けるとのことです。帰りに伊豆山神社にお参りしてきました。かなり高いところにあり箱根の十国峠につながっているとのことでした。こちらから初島も見えました。

頼朝と政子の座った腰掛石が境内にありご神木の一つである榎(なぎ)の木の葉は縦にしか切れず横には切れないとのこと

とで二人の深い契りを象徴しているとのことでした。ここで頼朝と政子は源氏の棟梁としての旗揚げを誓ったのでしょうか。鎌倉も近いです。平清盛が頼朝に温情をかけた為、源平がくつがえされたのを教訓に、家康は心を鬼にして秀頼と淀殿を追い詰めたとも言われていますが、伊豆を巡る大河ドラマの展開に興味津々です。伊豆山神社の往復は土石流被害跡を目の当たりにして心が痛みました。一日も早い復興を祈りました。

巡り合わせでしょうか。熱海の余韻も冷めやらぬ中、新聞報道で昭和の熱海が描かれた壁画が浜松市内の元銭湯館から出てきたと知り、早速伺ってみました。一昨年、研修部主催で市内ウォーキングした際、南番所跡地まで行きましたが、松尾神社近く北西、東漸寺・法林寺に向う通り沿いの大工町の「巴湯」が2月26日の営業を最後に閉められ、解体工事をしていたら防水対策で一旦姿を消していた壁画が出てきたとのこと。大衆に愛されて75年、ずっと営業されてきたとのこと。



榎の葉 (落ち葉)



解体工事に出してきた巴湯の壁画



それぞれの中央にタイルの浴槽、番台もありました。どんな煙がたなびいていたのでしょうか、空高く突き出したかわいらしいスチールの煙突にほんわかしました。

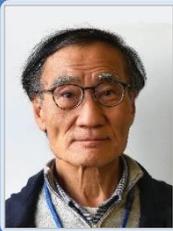
かつては新婚旅行のメッカだった熱海、最近ではホテルも高層マンションに姿を変えてしまっただけでなく、温泉あり歴史ありでいつも賑わっている熱海は魅力ある町です。熱海桜は早くもピークを過ぎていましたが、この時期にしか採れないという松崎の川のりを土産店で見つけ、伊豆の春の香りを楽しんでいます。

びっくりがあります。熱海駅の観光案内所でコインロッカーの場所をお聞きしましたら、教えてくださった駅ビルのコインロッカーはQRコード読み取り式で何と鍵は紙切れ一枚と姿を変えていました。菓ごもりの間にも世の中は動いていました。

南ブロック 金原里枝

**おわび** 3月号(236号)の2ページの記事(子供向けリーフレット)は2名の共同投稿でした。投稿者の中ブロック・堀内映さんの名前の記載が抜けていました。訂正しておわびいたします。

## 新入会員の入会動機



以前松江に旅行した時、松江城で観光ボランティアの方に案内をしていただきました。丁寧な案内を受け、観光ボランティアガイドに好感をもちその役割の意義に触れました。同様にボランティアの活動を通じて、浜松の歴史や文化・暮らしなどを多くの人に紹介し、より身近に感じてもらうことができたらいいなと思っています。

中ブロック 杉田虎臣



昨年2月の「富士山の日記念ウォーク…新川（浜松城外堀）の水源と早春の森をボランティアと歩いてみよう！…」のイベントの案内が目にとまりました。興味をもったのは「新川が浜松城の外堀」とのこと。そして、新川（新しい川）の名前の由来が解かったような気がして、さらに理解を深めようと記念ウォークに参加させていただきました。2～3時間のウォークでしたがボランティアの方のご説明で浜松の新しい発見があり、同時に浜松出身の私としては更に浜松の見聞を深めようと思い、ボランティアの会の入会をさせていただきました。また、サラリーマン時代に研修の仕事に携わっていた時期もあり、人に教える面白さ、難しさも経験してきましたので、第二の人生にページを付け加え、さらに、ボランティアの仕事を通じて、人とのつながりも大切にしたいと思っています。

西ブロック 鈴木良隆



広報はままつで観光ボランティアガイド募集の記事を見つけて以来ずっと、いつか私も浜松を案内してみたいと思っておりました。定年退職を迎え、子供たちも成長した今、やっと念願叶って入会の申し込みができてもうれしく思っております。

はるか遠い昔、私がまだ学生だったころ、京都で学生ボランティアガイドとして、主に京都の清水寺をガイドする経験をしました。ガイドの勉強は大変でしたが、京都の多くの神社仏閣を訪ね、多くの人と出会い、日本文化や歴史を知るよい経験ができました。私にとって、ふるさと浜松を案内できることはとても幸せなことです。

これから浜松城をはじめ浜松の地理や歴史などを学び、浜松を訪れてくださる皆様に魅力ある浜松をご案内できたらうれしく思い、入会を希望いたしました。

北ブロック 山影初枝

## 浜松城富士見櫓跡整備完了



復元整備された富士見櫓跡

天守の北側にある富士見櫓跡は皆さんよく御存知ですね。平成20・21年の発掘調査において、櫓の北面で基礎石を発見、またその北側に玉石が敷かれていたことなどがわかったため、私たちは富士見櫓がいつか復元されるものと十年以上ずっと思い続けてきましたが、その富士見櫓についての説明が市よりありました。

「浜松城の富士見櫓跡、浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画では復元整備

を行う方針だったが、復元根拠が希薄であることや、櫓台の保存など多くの課題があるとして、建物の復元整備は現時点では困難である。そのため露出した基礎石等の遺構の保存と周知を目的に、櫓の平面表示と遺構解説看板を設置し、また、照明灯を景観に配慮した背の低いものに更新する」私はいささかがっかりしましたが、今は納得しています。

現在富士見櫓跡には、英語の翻訳文付きの遺構解説看板が設置されています。

広報部 中野典子（東ブロック）



遺構解説看板

## 犀ヶ崖資料館に「徳川十六将図」展示予定

犀ヶ崖資料館の展示品に「徳川十六将図」の複製パネルを浜松市博物館の許可をえて製作しました。浜松市博物館が所蔵している「徳川十六将図」等の7点です。これらは浜松市立図書館のデジタルアーカイブでも見ることもできます。

浜松市博物館に展示してある「徳川十六将図」の説明文には「徳川家康を中心に、側近の16人の家臣たちを一つの画幅に描いた画像です。三河以来、家康に仕えた武将たちばかりの中に遠江出身の井伊直政の姿があります。家康の浜松在城時に見出されて、重用された直政は、家康に近い位置に描かれています。この十六将図は家康に近い位置に配置されている將軍ほど、重臣であると見られています」と書かれています。今後、犀ヶ崖資料館で「徳川十六将図」等の複製パネルを順次展示する予定です。この際に家康の16人の家臣たちに関心を持って、ガイドの幅を広げてみましょう。

西ブロック 春日康治



## 会報「はままつ案内人」投稿状況 (2021年4月号～2022年3月号)

会報「はままつ案内人」への投稿ありがとうございました。2021年度はコロナ禍での緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令され、期間中は当会のガイド活動、主催事業の「県民の日ウオーク」「富士山の日ウオーク」等が中止となりました。このような中でも会員からの投稿が多数あり、毎月会報を発行することができました。

ブロック	投稿延べ人数		合計
	広報部員	会員	
東	1名	6名	7名
西	6名	6名	12名
南	7名	7名	14名
北	8名	10名	18名
中	6名	14名	20名

## 2022年度 会員数

	東ブロック	西ブロック	南ブロック	北ブロック	中ブロック	合計
継続会員(男性)	15名	11名	15名	16名	12名	69名
新入会員(男性)	2名	4名	1名	3名	3名	13名
継続会員(女性)	5名	6名	5名	2名	7名	25名
新入会員(女性)	1名	1名	1名	1名	1名	5名
合計	23名	22名	22名	22名	23名	112名

## 3月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

### 《浜松城》

複数回来場のあった団体			
*	クラブツーリズム	3回	72名
*	全国農協観光	2回	16名
3日	木	クリスタルクルーザー（阪急交通社）	5名
17日	木	ツーリズム関西ホーム	13名
18日	金	阪急ツアー	4名

20日 日 在留外国人向けモニターツアー 13名

### 《犀ヶ崖資料館》

15日 火 愛知学院大学 13名

### 《浜松まつり会館》

10日 木 富士市立富士根南小学校 66名

## はままつ案内人会報 237号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会  
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2（浜松城内）  
TEL&FAX 053-456-1303  
メールアドレス mail@hama-svg.jp  
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地